

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0891200115		
法人名	社会福祉法人幸清会		
事業所名	グループホーム来夢の杜太田	ユニット名( すずらん )	
所在地	茨城県常陸太田市上河合町字1527-1		
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 10 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人いばらき社会福祉サポート
所在地	茨城県水戸市大工町1-2-3 トモス水戸ビル4階
訪問調査日	令和2年10月27日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>■とにかく元気があるユニット</li> <li>■計画作成担当者を中心として、ケアプランに沿ったケアに力を入れて取り組んでいる</li> <li>■入居者が、認知症になっても自分らしくそれぞれの時間を過ごすことができているところ</li> <li>■関わりが難しい入居者に対しても職員一丸となって根気強くケアを行っているところ</li> <li>■入居者に楽しんでいただくための計画的な行事と日常のレクリエーションの実施</li> <li>■入居者の好みの味付けにしたり、調理方法を工夫しているところ</li> <li>■新型コロナウイルス感染対策の前から毎日掃除を徹底し整理整頓が行き届いているところ</li> <li>■看護師と薬剤師が関わってくれている安心感と医師の協力のもとに実施している終末期ケア</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	採用時に法人の理念カードを配布。 毎日昼礼時に、奇数日は法人理念・偶数日は事業所理念と決めて唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策のため、現在交流を制限している。しかし、地域の方が農作物を届けてくださったり、これまで対面で行っていたセブンイレブンの移動販売車の代わりに店員さんが隔週月曜日に注文を取りに来てくださっており、生活を楽しむ工夫をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験学習の受け入れを毎年行っていたが、昨年度は日程が合わず受け入れは行っていない。認知症になって施設で生活しているお年寄りも、当たり前の暮らしを行っているということを伝えるきっかけを作りたいと思っている。認知症の方に対する意識を変えるきっかけを作るよう努めていたが、新型コロナウイルスの関係で今年度の依頼があるか、現時点ではわからないが、市内の発生状況を見て判断したいと考えてる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染対策のため中止していたが、感染対策を講じたうえで7月に予定した第2回については実施した。運営推進会議には、行政、消防、警察、自治会副区長、地域住民、入居者家族などに参加して下さっている。事業内容や日常生活の様子だけではなく、事故報告や苦情等についても報告し、参加者から助言を伺って、事業運営に活かしている。 開催中止となったときには資料を送付し、質問や意見を書いていただけるよう返信用封筒を準備した。出された質問に対しては第2回開催時にお答えした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常陸太田市の担当者や地域包括支援センター・社会福祉協議会の担当者は、運営推進会議に必ず参加して下さっており、入居者の相談から、職員確保の件、困難事例等についても相談できる関係性を築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設から現在に至るまで、身体拘束は行っていない。身体拘束に関する研修は年2回以上の開催が義務付けられているが、開催だけでなく、昨年度に引き続き今年度に関しても全職員が2回以上身体拘束の研修に参加できるように計画し意識を高めるよう努めている。2回のうち1回はユニット会議の時間を活用し開催しており、少人数での研修を行うようにすることで、参加率を高めるだけでなく、ユニット独自の課題を話しやすい環境での研修を取りれた。また、入職時のオリエンテーションの際、事業所の身体拘束の指針を配布し内容についてもしっかりと伝えてから現場に入っていたくようにしている。法人本部からも身体拘束等の注意喚起の連絡が入るため、昼礼を利用して情報提供を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待や不適切なケアについて報道された記事について昼礼で情報提供したり回覧したりすることで注意喚起を行っている。また高齢者虐待の理解を職場内研修会で深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に権利擁護の資料を掲示している。また、理事長を講師として迎え、権利擁護や成年後見人などについては、高齢者虐待防止に関する研修と一緒に知識を深める機会を作っている。日常生活自立支援事業を活用している入居者がいる。また認知症の進行に伴い、ご家族に成年後見制度を活用した入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や解約の際には時間をかけて契約書や重要事項説明書の内容を補足説明をしながら分かりやすく説明するよう努めている。入居後の介護報酬改定等の際にも、入居者・契約者に対して説明を行い、理解を得て同意を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度法人による家族アンケートを行っており、その内容についてもひとつひとつ事業所からのコメントをしている。アンケートの集計結果については、ご家族への送付及び玄関掲示することで、入居者にも読んでいただけるように工夫している。現在は新型コロナウイルス感染対策のため面会制限をかけているが、それまでは「連絡ノート」を活用し、来訪時にお渡しすることで居室で面会中に職員に対して直接言いにくいことを書いていただき、職員と気軽に意見交換できるように工夫していた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議を開催し、職員同士で意見交換を行い、意見や提案を聞き取りを行っている。また、今年度より1係1担当制を導入し、職員が責任感をもって仕事をする仕組みを作った。これまで行っていた毎月の活動報告書の作成については職員の業務負担軽減を目的に廃止したが、毎日の昼礼時に係からの連絡を伝えられるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに、職員の職種や経験年数などを勘察して、個別に法人に対して昇給交渉を行っている。また、法人が主催するオンライン研修に職員を参加させている。また、法人が主催している実務者研修に今年度、あじさいユニットだけで4名参加者しているため協力ユニットとして調理業務を手伝うなど、自ユニットに参加者がいなくても、向上心のある職員を支える雰囲気がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回内部研修を企画し計画的に学ぶ機会を作っている。新人研修に関しては、オンラインによるフォローアップ研修に参加できるよう配慮している。外部研修に関しては、新型コロナウイルスの関係で次々と中止されているが、オンライン参加できる研修については積極的に検討する予定でいる。各機関より送られてくる研修案内は必ず全職員に回覧し、希望があった場合は、勤務調整をして参加できるよう配慮しようとしている。研修の参加については、常勤非常勤問わず参加できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染対策のため、現在法人内事業所との交流も外部研修などへの参加は控えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新型コロナウイルス感染対策を講じたうえで、相手方の了解のうえで、入居前の事前面談・調査を行い、入居者の生活状況を把握し、個々の意向やこだわりをくみ取り、入居者の生活の継続性と質が保てるよう努めている。事前調査に行く際と受け入れの日は同じ服を着るなどし、認知症の方が一度会った職員であることを思い出せるよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新型コロナウイルス感染対策のためユニット内の立ち入りは制限しているが、入居者との接触しない配慮を行ったうえで、入居の相談があったときには、事務所でしっかりご家族の相談に応じるようにしている。その時点でご家族が抱えている悩みを引き出すようにできる限り時間を割いて話を聞くようにしている。入居申込については、無理強いせず他事業所の見学もあえて勧め、事業所のそれぞれの雰囲気を感じたうえで選んでもらえるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査を行う際、独自の聞き取りシートを使って、ご本人や家族との今までの生活歴やこだわりを伺って、必要としている支援を明確化し、ご本人の意向に沿った生活支援に繋がれるように工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の個々の状況を勘案し、日常生活の中で共に時間を共有し合い、楽しんで生活できるよう関わりを持っている。例えば、洗濯物を一緒に干したり、台所の片づけ、食卓テーブルを拭いたりしている。特に、洗濯物量は大人気であり、本当に職員よりもきれいに畳んでくださっているのので、感動と心からの感謝の気持ちを伝えることで、やりがいにもつながっているように感じる。新型コロナウイルス感染の前には、粗大ごみを出すのに職員と一緒に清掃センターに行くこともあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの感染対策により、面会制限をかけている状況にあるが、オンライン面会を勧めたり、ご家族直筆の手紙を定期的に届けてもらうことで、家族との繋がりを入居者が館実ことができるよう工夫している。 オンライン面会に関しては、全入居者家族にLINEのQRコードを送った。 生活の様子を月1回の居室担当者からのお手紙で伝えたり、病院受診の結果についても必ず報告をすることで、離れていてもご家族の状況や変化を把握できるよう努めている。 施設側が決めてしまうのではなく、必ずご家族を巻き込みご家族の意見を聞くようにしている。写真NGにより、広報誌に掲載できない入居者の家族に対して、その方専用の広報誌を作り郵送することで、会えなくても生活の様子が伝わるように配慮するようになった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診に関しても、協力医療機関はあるが、ご本人やご家族の意向を尊重しこれまでの医師との関係性が継続できるようでいる限り主治医を変えない配慮を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や相性、ADLに配慮し座席の配置を工夫している。徘徊や収集癖などの症状が出ている入居者の他者とのトラブルについては、しっかりと職員が説明を行うようにしている。また、居づらくなってしまったときには事務所やあじさいユニットで過ごすなど2ユニット間で協力体制をとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、遠方に住むご家族の希望により時折医療機関への面会を行い、ご様子を報告することや次の受け入れ先についての相談に応じるなど、ご家族との信頼関係や相談しやすい関係を構築できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自のフェイスシートを活用し、今までの生活状況や意向、こだわりを把握・理解し、居心地よく生活できるよう努めている。また、意向を伺えないときは、今までの生活歴などから意向をくみ取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新型コロナウイルス感染対策を講じたうえで、事前調査の際は必ず複数人で行くようにしている。場合によっては、看護師にも事前調査に参加していただき、職員のそれぞれの視点からの情報を集約し独自のフェイスシートを作成している。今までの生活歴やこだわり、心身状態をご家族やご本人から伺い把握して、入居後の環境の変化が最小限にとどまり、その人らしい生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の仕草や表情など日々のケース記録、職員同士の引き継ぎ、定期的なユニット会議で情報を共有しあい、ご本人の健康な能力が活かされるよう日常のケアに繋げている。また必要に応じて適切な福祉用具の活用を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なユニット会議やケアカンファレンスにて情報共有しご本人・ご家族、関係者などからも情報収集してモニタリングを行っている。また入居者個々の意向を共有しあい、同じ目標に向かってケアを提供できるようケアプランに反映させている。シフトによって、顔を合わせる機会の少ない職員もいるため、業務申し送りノートとは別に入居者申し送りノートがあるため、記入することで職員同士の情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄・入浴・食事量・水分チェックなどはケース記録とは別様式にし把握しやすいように工夫している。日々の生活状況はできる限り詳しくケース記録や申し送りノートの内容に記載するようにし、計画作成担当者を中心に、定期的開催するユニット会議で情報共有し、個々の意向が反映されたケアプランを作成し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市内のボランティアの方を招いてイベントを開催したり、外出企画を月1度は行っている。また今年度からは、毎月第4月曜日の午後は買物外出とし、買いたいものを自分で選んでお店で購入する機会を作っている。セブンイレブンの移動販売を活用し、月2回は、入居者が欲しいものが自由に買えるよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染対策によりセブンイレブンの移動販売車は来ていないが、隔週月曜日に店員の方が注文を取りに来てくれている。現在は感染対策によりその他地域資源の活用は控えている状況にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、ご本人やご家族の意向を尊重しこれまでの医師との関係性が継続できるようにしている限り主治医を変えない配慮を行っている。ご家族の希望により、協力医療機関に変更する場合もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師(1日4時間/週4日勤務)が両ユニットの入居者の健康管理を行ってくれている。看護師は、介護職員との情報共有に努めてくれている。受診の必要性の判断をしてくれることもある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に入居者の状況を家族に伝え、どのように対応すればいいか意向を把握して、入院となった際も主治医との面談には同席するようにし、ご家族の不安軽減に努めている。許可が出ている医療機関については、家族の代わりに入院中病院への面会に行き、病院関係者との連絡を密にして関係性を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本、入居時に重度化の指針についても説明し同意をもらっている。終末期の関わりについては、ひたちおおみやクリニックの横山先生に主治医をかえて頂く必要があることなどを事前に伝えている。 看護師が不在期間中の終末期に関しては、訪問看護ステーションの看護師が支えてくださり、看取を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設長とは24時間連絡がとれる体制をとっている。昨年度は、職員対象の普通救命講習に家族にも参加していただき、実践力を身に付ける機会を設けたが、今年はまだ新型コロナウイルスの関係で、実施できていないが、感染状況を踏まえて計画する予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て消防訓練を行うとともに、管理者を中心に災害時には、必要に応じて避難できる体制を整えられるよう、運営推進会議において各方面の専門職に意見を聞きながら、実際に参考となる体制強化に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り、自尊心を高められるよう、かつプライバシーに日頃から職員同士で不適切な声掛けとならないよう注意し合い支援を行っている。例えば、虐待の芽チェックリストを活用して、ユニット会議の時に話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	持病があってもお酒が飲みたいという入居者に対して、本人とともに主治医に相談し、ご家族の了解をもらって飲酒を開始した入居者がいる。いつも「わからない」「何でもよい」と言う方にも「どちらが良いですか」等着替えなどでも意思表示がしやすいよう説明を行い、個々の意思や意向に沿って選ぶなど、自分で意思決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の疾患別の特徴に配慮し、個々の生活パターンに合わせ、画一的にならないよう一日の生活を組み立て、ご本人のペースに合わせたケアを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の意向を把握し、家族の協力を得ながら、身だしなみを整えている。また、2か月に1回床屋さんが来ているが、新型コロナウイルスによる面会制限をかけている期間も、感染対策をしっかり行い、生活エリアには立ち入らないことを条件にして、散髪は行った。そうすることで、外出できないなど、楽しみが少なくなっている中で身だしなみを整えお洒落を保つことで少しでも気分が上がるよう配慮した。 定期的に、衣類の破損やサイズなど現在ある衣類を居室担当者を中心に把握し、必要に応じてご家族に購入をお願いしたり、場合によっては職員が代わりに購入するなどし、入居者がいつも清潔な身だしなみでいられるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本、ヨシケイの食材を活用しているが、献立を見て調理の仕方をアレンジしたり、プラス1品加えたり、鶏肉が食べられない入居者が複数いるため、代替の食事は提供できるよう準備している。 入居者が庭で育ててくれた野菜を使っておかずを作ることもある。 また、料理の下ごしらえや盛り付け、後片付けなどお手伝いいただき一緒に行うこともある。 ご飯の炊き方についても、ユニット毎の入居者の好みの硬さに合わせて炊いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ヨシケイの食材を活用しているため、管理栄養士が立てた献立で食事を提供している。 できる限り、ご自分で食べることができるよう、テーブルの足を切って食べやすい高さに合わせたり、最初から介助するのではなく、床を汚してしまっても、ご自分で食べていただくことを大切にしている。場合によっては食事介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昨年度まで来ていた訪問歯科は難しくなってしまうため、現在は歯科受診の必要な入居者に関しては市内の歯科受診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄状況をパターンシートに記入して、個人の排泄パターンを把握するようにしている。 また、安易に下剤を使用せず自然な排便が促されるよう、朝一番(朝食の前)に全入居者に牛乳を飲んでもらうようにしている。牛乳が嫌いな方にはヨーグルトを提供している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に下剤を使用せず自然な排便が促されるよう、朝一番(朝食の前)に全入居者に牛乳やヨーグルトを飲んでもらうようにしている。献立をみて、朝食のプラス1品にヨーグルトやヤクルトを追加することもある。また、毎日10時からラジオ体操を行い、自然な排便に繋がられるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日夕食前に入りたいという入居者の希望を叶えることができている。また、午前・午後など個々の入浴時間のこだわりに合わせてタイミングをはかり、入浴を楽しんでいただいている。週2回の入浴を確保するため、基本的には入居者の入浴曜日は決まっているが、本人の意向や状態に合わせて、曜日を変更しながら支援している。また午前中声掛けをして拒否があった場合は、午後にはずらすなど、無理強いをせず気持ちよく入ってもらえるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルや生活習慣に合わせて、画一的な消灯時間、起床時間ではなく、その日の体調などの状況も踏まえて、状態に合わせて関わりをもっている。実際10時過ぎまでリビングでテレビを見てから寝つく入居者もいる。それもよしとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日本調剤薬局の薬剤師が週2回来訪し、薬の配達・配薬をしてもらっている。訪問時、服薬方法についての相談や副作用についての相談に応じてもらっている。また、薬剤師が直接主治医と話し、薬の調整も行ってくれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みんなのためにと野菜を育ててくれている入居者がいる。また、庭の草むしりなども行ってくれている。朝の日課として玄関先の花の水やりも入居者が行ってくれている。食事の用意や調理、掃除、洗濯など入居者個々の身体状況に合わせ、一緒に生活を楽しめるよう支援している。また、嗜好品に関しても、持病がある入居者に関しては主治医と連携を取り、対応している。これまで力を入れていた月1回の外出企画については新型コロナウイルスの感染対策により中止となっているため、代わりに毎月第1日曜日のお昼をお楽しみランチの日として、イベント食を提供し、また施設内で行うことができる行事に力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、新型コロナウイルスの感染対策により戸外への外出は控えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の入居者同士のトラブル回避のため、お金の所持については控えて頂いている。本人の私物を購入する際などは、家族の了解を得て購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が家族に連絡をしたい場合には、拒むことはせず、お家族の協力のもと、電話をかけることができるよう支援している。また、現在は新型コロナウイルスの感染対策により面会ができない代わりにLINEのビデオ通話機能を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室に湿度・温度計を設置し、快適な環境に配慮している。職員の履くスリッパについても静音スリッパやクッション性の高く音が響かないものを使用してもらうようにしており、職員の話し声など入居者が不快にならないように配慮し、居心地のいい環境づくりに努めている。また、リビングなどに雑誌等を置き、いつでも見られるようにしている。また、職員の話し声や足音も不快にならないよう心がけている。新型コロナウイルス感染対策により、外出ができない代わりに、季節を感じることができるようにぬぐいを飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中に、食事をする空間とソファに座ってくつろげる空間がある。また、畳のエリアがあることで、座って食事をとることもできる。夏は食後に畳に寝ころび昼寝をする姿もあった。座席の配置については、入居者の相性を考慮しながら決めている。 場合によっては、あじさいユニットでおやつを食べることもある。安心できる環境で過ごしてもらえるようにユニット間で協力しあっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、使い慣れた馴染みある家具を持ち込んでいただき、ご家族と居心地の良い居場所づくりをしている。場合によっては、新しい家に越した時と同じように新しい家具を買いそろえてもらいうい、新たな気持ちで生活がスタートできるように関わることもある。また、入居してからも家族や契約者の協力を得ながら、ご本人の身体状況の変化に対応した設えづくりを心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は認知症の入居者が、安全かつ自立した生活が送れるよう、トイレの表示を分かりやすく工夫している。トイレや浴室、玄関に応じて手すりを増設している。		